

雑 報

衛星の認知と命名

土星のF環のまわりには、1980S27, 1980S26 という2つの小さな衛星がこの順番の軌道の大きさでまわっていることが、1980年の10月から11月にかけて Voyager 1号 によって見つけられ、1981年の8月には Voyager 2号 によって確認された。そして、最近になって軌道が確定したので、S16, S17 という名前があたえられ、Prometheus, Pandora と IAU によって命名された。

また、冥王星の衛星も 1978 年に発見されていたが、最近の冥王星と衛星の食の現象の観測により、正式に IAU に認知され、Charon という名前があたえられた。

(古在 由秀)

第二回岡山ユーザーズ・ミーティング

1985年10月22日・23日の両日に渡り、東大総合図書館で第2回ユーザーズ・ミーティングが、のべ66名の参加で開かれた。ミーティングは、岡山で観測したデータに基づく天文学研究の報告(12報告)、観測装置・検出器の現況・テスト・提案(7報告)、岡山の現在かかえて

いる諸問題及び将来についての討論(4報告)の3セッションに分かれて行なわれた。天文学研究の報告の中では、観測所への要望や共通する問題点についても言及され、本ミーティングが観測者と観測所の意志疎通を計るよい機会となりつつあることが示された。討論の中では、昨年度より懸案の大プロジェクト制、レフリー制、年2回観測プログラム募集のうち、実施可能性の高い年2回募集制についてユーザーズ・コミッティ(光天連)で原案を練り、光天連シンポジウム(東京、86年1月)で提案する方向で議論をすすめることになった。詳細は、近々発行される集録を御覧下さい。

(佐々木敏由紀)

訂 正

昭和60年10月1日現在で発行しました会員名簿の賛助会員の中で、下記会社代表者に誤りがありましたので、お詫びの上下記の通り訂正致します。

p. 85 大阪市立電気科学館

笹川久史氏を北澤淳氏 に

p. 86 日本光学工業株式会社

小秋元隆輝氏を福岡成忠氏 に

天体観測雑誌

天文ガイド

3月号 定価420円 2月5日発売

いよいよ夜明けの空に！最後のチャンス
ハレー彗星観測ガイド

富田弘一郎先生の解説で

宇宙時代の望遠鏡

日本各地の天文ファンのなまの声を特集

チロ望遠鏡全国キャラバン大成功

読者の皆さんから山のように届きました！

ハレー彗星の姿

- 新しい望遠鏡光学系 ●3月の星空
- 天文学とコンピュータ…など情報満載

3月から4月にかけて、いよいよハレーブームは頂点に達します。オーストラリアからは、4月11日の最接近にむけて、TVの宇宙中継も！「天文ガイド」で最新情報を。

天文年鑑1986

●携帯に便利なハンディー・B6判 定価520円

ワイド版天文年鑑1986

●大きく見やすいワイド・B5判 定価1000円

切りぬく本 万能星座早見'86'87年版

●企画・構成／藤井旭 定価690円

切りとる本 天体観測野帖'86秋～'87夏

●企画・構成／藤井旭 予定価690円

誠文堂新光社 東京都千代田区神田錦町1-5
電03(292)1221 振替東京7-128